

浜町から 風の便り XVI

2020(令和3) 1.15.
船橋市浜町 辻 秀幸

祝成人

令和3年、船橋市の成人式はオンラインで行ったそうです。お身内に成人式を迎える方はおられますか。その方を祝してめでたい鶴の折り方のトリセツです。

祝成人・千羽鶴その一

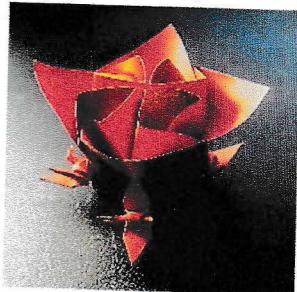
高校野球のダッグアウトにぶら下げられていることがある千羽鶴を作つてみようかと思った。少しは慰めになるのかしらと。作り方にうまい工夫があるかもしれない、と本屋で探した。折り紙の本は多いが、千羽鶴のつくり方の出ている本は見つからなかつた。その代り、ある本の裏表紙の「鶴の華」と題した写真が目に付いた。1枚の折り紙の中に幾つかの小さい鶴を折り、全体を花のようにまとめた創作折り紙であった。(『鶴を折る』フティック社 1993裏表紙掲載 市橋玄牛作)

折り紙自体に関心はないが、この写真には興味をもつた。どうやつたらこういう形になるんだろうか。

見て、考えていると仕組みがわかった気がした。

出来た。写真と似ているではないか。面白くなつて、めつたやつたらとひねくりました。小さい鶴をぶら下げた花もどきが幾つも出来上がつた。気がついて、やみくもにひねくりまわすのではなく、鶴の配置、大きさなどを整理して一つずつためした。

その成果を「鶴の花」と題した本にまとめた。名作の一つを紹介しよう。



【上写真がもし万一、折り紙創作をしている方の目に触れましたら：辻の創作です。創作時点での公表も似寄りの創作折り紙の確認もしていませんので、ご自分の創作だという主張に、私が異議を唱える気はありません。創作の年月日と折り方図が記録してありますので確認のお問い合わせには応じられます。】

皆さん、興味なさそうなので次の話に移ろう。でもやっぱり鶴。

祝成人・千羽鶴その二

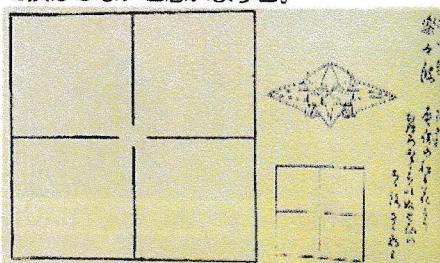
「その一」を夢中になって楽しんでいる時に、『秘傳千羽鶴折形解説く復刻と解説>』(日本折紙協会編 1991/5/1. 日本折紙協会発行)という箱入りの本が目に留まった。神の啓示か悪女の誘惑か、購入。ヒコーキの本でもあきらめるほどの値段だが、その頃は腰にも気分にも余裕があった。

こちらの千羽鶴は、ぶら下げるのとは別の、昔からの本家千羽鶴。一枚の和紙で2羽から千羽(この本での最大は97羽)まで折り出すというもの。

その中から、市販の折り紙で作れる一番簡単なものをおむりやり紹介しちまおう。

折り紙を4等分して4つの鶴を折るだけ。ではトリセツ。

伝統折りの鶴（普通の折り方）を折ったことがない方は隣りの方に教わってください。簡単です。外国人と仲良くしようという時のダシとして使えるので、覚えておいて損はないと思いますよ。



左が折り方図（設計図） 右は原著（復刻）の該当頁 「樂々波（さざなみ）」と名前が付けてある

和紙折り紙：折り紙を揃えている店なら置いてある。両面着色は避けよう。

ハサミ：ナイフでも可。

物指・鉛筆：なくても何とかなる。

折り方：折り紙を縦と横それぞれに2等分する線を引く。無ければ折り目をつければOK。折り紙を4等分するわけ。

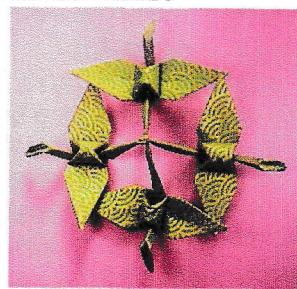
線（折り目）を切る。中央5ミリ程度を切り残す。この切り残し部分が4つの鶴を連結する。

鶴を折る：4等分した四角一つずつ折る。面倒だが、鶴を折りながら紙全体を素直に従わせること。折っている鶴だけについてひっくり返し、向きを変えたりしているとつなぎ目に負担がかかる。和紙が丈夫とはいえ薄い紙であるからして、邪険に扱うとブチ切れてしまう。めんどくさくても優しくね。それと、4つ全部鶴になるまで羽を豊んでおくこと。優しくやきしきね。

つなぎ目：クチバシ（尾）になるか羽の先になるか、気にしない。もし興味が湧いてもう一つ折ってみようという時に気にする。折っている途中でクチバシか羽かわかる過程があるので、その時に少し悩んでください。

仕上げ：鶴4つ折り上がったら、羽・胴体巻広げ机上に置いて整え、完成の喜びの一献肴味わい、ほくそ笑む。

下写真は尾でつなげた状態。



『摺傳千羽鶴
折形』の
「樂々波」

折り紙の裏面を表に出す折り方も可能なので、一つおきに別色の鶴とすることができます。その時は両面着色の折り紙を使ってみよう。用意する時に両面着色を避けると言ったのは、紙が厚く硬めになるから。折り紙に慣れているなら始めから厚さに関係なくお気に入りの用紙を利用してなんら差支えない。

ところで、伝統折りの鶴は、いつ頃から折られているのでしょうか。先に紹介した本によると、はっきりしない、そうです。本の挿し絵にそれと確認できる絵が現われるには享保2年（1717）や享保13年出版の絵入り本だそうです。江戸中期には人々が折って楽しんでいたということのようです。

ぶら下げる千羽鶴のことはすっかり忘れていました。

トリセツ

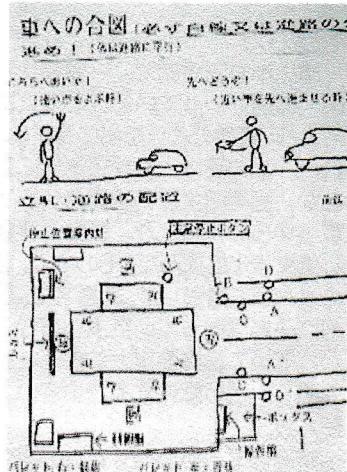
パソコンを何台か買い替えたが、取説(とりせつ)。取扱説明書。マニュアル)はなかつた。なぜ説明書が付いてないのか不思議である。その前の、ワープロの時は付いていた。平成 19 年(2008)の新聞記事から推察すると当時の国産パソコンには付いていたらしい。その頃、パソコンに限らず、付属してくる説明書の分かりにくさが話題となっていた。

作った側の人が説明書を書いていたことが原因だろうということらしかった。仕組みや扱いに慣れている専門家が書くので、シロウトには丸で通じない、ということが記事に書かれている。

私が今使っているノート型パソコンを購入した時、電源を入れることは出来たが、まずインターネットでこれこれをあれあれして……と画面に出てお手上げ。インターネットはやっていない。店に持つて行ってお姉さんに解決してもらわねばならなかつた。それからがまた大変。説明書がないので、似寄りの機材についての市販の本を探して試行錯誤。写真をワープロ機能（このパソコン上ではワードという機能）で使おうとして手古摺った。インポートしてそれをああしてこうしてということだが、市販の本はかなり親切に書かれてはいたが、すんなりとはいかなかつた。そもそも説明書がなぜ付いていないのか。出版社と癡着しているのではないか。

マニュアル人間という言葉があったと記憶する。町にコンビニが現れ、接客とか販売

するとかいうことを初めて経験する若者に、マニュアルが用意された。仲間内でないお客様に、一定の言動を取れば失礼がなく、好感をもたれるだろうというわけである。今でも、コンビニでは「いらっしゃいませこんなにちは」と声をかけられことがある。これがマニュアルであるらしい。よく利用するスーパーでは、新人さんは両手をおへそのあたりに組んで目を見てありがとうございますと言う。レジスターの扱いと同時に先輩から教わっている姿に時々出くわす。ところが少し慣れてくると金銭の処理にのみ集中して、手は組まない目をあわせないありがとうございますとも言わなくなる。別のスーパーで、ありがとうと言ったら「こちらこそありがとうございます」と返されて驚いた。この店のマニュアルにあるのだろうか。即座



「シティホテル・アルファ」の立体駐車場の操作マニュアルのイラストの一部。手書き。次ページ「専門バカ」参照。「シティ・ホテル『立体駐車場 入・出庫手順』」1990 平成2 頃 から

に口に出た所から察すると、この人の普段の習慣かも知れない。

面白かったというか恥ずかしいというか、銀行に入った時のこと。女性から、指先をそらせて伸ばしあへそで組み、肘を張り、足先を前後にずらした形に組むスタイルで上体を30度前傾してニットっぽえまれた。最上級のおもてなしとしてマニュアルとなっているのだろうか。歓迎されたというよりはコバカにされたような妙な気分になった。その後まもなく店頭に立つのは男性になり、会釈程度のあいさつをされる。これで私は心安らかに出入りできるようになった。時と所には一切構わず、美しい姿、理想の挨拶の仕方を教え込むプロフェッショナルが居るのだろう。こういう教え方のプロを私は専門バカと呼ぶ。

専門バカ

市川市立図書館で、一通り仕事を覚えた頃、お前がやっていることを文章にまとめてみろ、基準のようなものを作れ、と命じられた。本の受け入れから本棚に並べるまでとか、図書館主催の読書会やらレコード観賞会やらの行事とか、頭脳と経験を総動員して文章化に挑んだ。その中で、目録カードの並べ順に苦労した。手書きで、日本目録規則に一應は則っていたようだが、様々に書かれていって、必要以上に省略されたカードもあり、どう解決するか小さいノーミソで悩んだ。

時過ぎて、思い返すとこの時の基準まとめが私をマニュアル作り大好き人間にしきっかけだったと思う。

市川学園図書館のカードも同様に混乱していたが、市立図書館の時の経験を踏まえ、

利用者の立場に立って割とすんなりまとめることができた。

市立図書館の時には、目録作成側の都合だけに気を取られていた。使われてこそその目録ということを忘れていた。

「はやぶさ2が完全な状態で『玉手箱』を舞い降ろしました」。これが専門家の説明だ。ワクワクドキドキして待っている我々に、聞いたこともない数式や部品名やらを並べ立てる科学者や技術者がいたら私は専門バカと呼ぶ。

基準としては事細かに決めておかなければならぬが、大事なのは夏目漱石のカードがまとまっていて、書名の順に探せること。そうなるように整えるのがマニュアル作り、とまあそんな風に反省しわけ。

その後、海神に出来たシティ・ホテルの立体駐車場の操作手順、高瀬町にあった工場内の売店での心得などをまとめた。これらは自分用の備忘録としてまとめたが、新人指導に役立った。

私も専門バカにならぬようにせねば、と言つても既に専門を持っていない。



リュウグウからの
おみやげ 玉手箱
読売新聞 2020/12/16.
朝から

リュウグウからの
おみやげ 玉手箱
読売新聞 2020/12/16.
朝から

マイナンバーカードの代理人更新に行きました。新聞の投書に、船橋では予約の必要もなく簡単に済んだ、とありました。その通り私自身の時も今回もすぐ手続き完了。個人情報の取り扱いで、興味深い経験をしましたので、いずれの目にかご紹介しようかな。